

平成28年度 学校教育計画の評価

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(1)校務運営	<p>①各部・教科・学年間の情報の共有化。 職員会議や校務運営委員会などの協議をもとに、各種情報の共有化と共通理解が図られた。</p> <p>②教職員の意欲的な参画意識の醸成。 常に報告、連絡、相談の姿勢を忘れず、分掌間の調整と協力体制を保ちながら教育活動が行われた。</p>	<p>①目指す生徒像を明確にし、本校が抱える課題や問題点を解明にする。</p> <p>②分掌間の効果的な連携のあり方を目指す。</p>	<p>①本校の目指すべき方向性について共通理解を図り、重点項目を策定する。</p> <p>②わかりやすい構造図を示しながら、教育活動への意欲的な取り組みを推進する。</p>
(2)教育課程	<p>①教育課程の編成 ・年間6回の教育課程委員会を実施し、教育課程の編成や運用を協議した。 ・新学習指導要領の完全実施を受け、各学年の問題点や見直すべき点を検討した。</p> <p>②科目選択のしおり(シラバス)の作成 ・1年次生の分野科目選択説明会(保護者・生徒)を実施した。出席保護者数約64名。</p>	<p>・新学習指導要領の実施を通して、教育課程の内容の確認と検討を行う。 ・総合選択科目及び自由選択科目の在り方と内容について検討する。 ・分野と科目選択が円滑に行われるように、「産業社会と人間」、分野科目説明会、面接等の充実を図る。</p>	<p>・教育課程委員会を中心に各分野の目標に合った教育課程であることを検討する。 ・進路実現に向け、適切な分野科目選択ができるよう、学年、担任だけでなく、各教科、分野との積極的な連携を図る。</p>
(3)教科指導 重点1	<p>①指導内容の充実と指導方法の改善について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②基礎学力の定着について ・日頃の学習時間が大変不足している。 ・「科目選択のしおり<シラバス>」を作成して、学習方法や指導計画を示し、身につけるべき能力を明確化したが、理解不十分な生徒がいる。</p>	<p>・指導内容の充実と指導方法の改善について<詳細はアクションプラン参照> ・どのようにして家庭学習習慣を定着させるか。 ・シラバスの見直しと効果的な活用方法。</p>	<p>・互見授業のさらなる充実を図る。 ・新学習指導要領の実施にあわせ、シラバスの内容をより分かりやすいものにする。 ・課題の提出率を高めるようにする。</p>
(4)生徒指導 重点2	<p>①遅刻指導について<詳細はアクションプラン参照> ・遅刻を繰り返す生徒には、段階に応じて特別指導を実施した。遅刻総数は減少傾向にはあったが、横ばい状態と言える。保護者とともに改善策を考察する必要がある。</p> <p>②スマートフォンの指導について<詳細はアクションプラン参照> ・本校生徒の実態に即した講話や情報を提供し、ネット使用のルールやマナーについて考える機会を設定した。 ・少数ではあるが、繰り返しネットパトロールでの指導を受ける生徒がいる。その都度、注意喚起を促した。</p>	<p>①遅刻指導について<詳細はアクションプラン参照> ・保護者と連携し継続した指導が必要。また個別指導と全体指導を絡めて、全校が一丸となって取り組む姿勢を育てる。</p> <p>②ネットパトロール指導について<詳細はアクションプラン参照> ・保護者と協力し、ネット使用に関する規範意識も含めて、家庭内でのルール作りに取り組む。</p>	<p>・学年、生徒会等と連携し、遅刻防止月間や服装、マナーの改善を働きかける運動を企画し、全校的な取り組みとする。 ・ルールやマナーの遵守、落ち着いて学習に取り組める環境を整える。 ・遅刻を繰り返す等、改善されない生徒について、効果的な指導方法を模索し、個別指導を実施する。</p>
(5)特別活動 重点4	<p>①学校行事の充実と積極的な参加について<詳細はアクションプラン参照> ・1/4を超える生徒が校外の行事に参加し9割が満足感を得ているが、校内行事に対しては7割にとどまっている。</p> <p>②部活動やボランティアを通じた学校生活の充実について<詳細はアクションプラン参照> ・生徒は自分の力が向上したり、他生徒等との交流に対して充足感を味わっている。大会入賞者は増加の傾向にある。</p>	<p>①学園祭の円滑な企画・運営と生徒の活躍の場について<詳細はアクションプラン参照> 生徒会の一員としての意識向上。</p> <p>②部活動を通じた学校生活の充実について<詳細はアクションプラン参照> 生徒の活動時間を保証し、成果が上がるようにする。</p>	<p>・行事に対して多くの生徒に活躍の場を与えられるよう1人ひと役を目指す。 ・校内行事に対する個々の価値観を高める。 ・生徒、顧問、外部指導者等の連携を深め、活動の充実度を高める。</p>

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(6)進路指導 重点3	<p>①進路ガイダンスや進路体験講座の企画・実施について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②進学・就職に対応した資格や学力の獲得 学年・教科が中心となり、放課後や長期休業中に希望者補習を実施した。また、週末や連休等に課題を与えて基礎学力の定着を図った。</p> <p>③希望者を対象とする学習会などの企画・実施部活動等の予定と調整がとれず、希望者を対象とした学習会を開催できなかった。</p>	<p>①進路ガイダンスや進路体験講座の企画・実施について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②課題の程度や分量を検討する。また、資格取得の重要性を説き、継続的に学習や実技トレーニングに取り組ませることで自信を持たせる。</p> <p>③実施時期や参加対象者への募り方を見直す。</p>	<p>①進路ガイダンスや進路体験講座の企画・実施について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②教員が連携して生徒個々の実態を把握し、進路目標を早期に明確にさせ、その実現に向けて学習する雰囲気高める。</p> <p>③各種行事や部活動の大会日程等を把握し、調整する。</p>
(7)保健美化	<p>①定期健康診断・各種検診を円滑に立案・実施した。また、生徒個々の既往症の対応も、職員の共通理解を図りながら対応することができた。</p> <p>②保健通信の発行、生徒個々に応じた対応ができた。また生徒保健委員会活動を推進した。</p> <p>③校舎内外の環境美化のために、特別清掃や美化週間を計画通り実施できた。</p>	<p>①定期健康診断後の受診率・治癒率を高める。</p> <p>②集団指導と個別指導の指導方法を工夫する。</p> <p>③全校生徒が、環境美化意識を高めるような方策を検討する。</p>	<p>①受診が必要な生徒への指導の徹底と、救急対応の職員研修を適時実施する。</p> <p>②保健活動をより推進し、生徒への指導効果を促進する。</p> <p>③美化活動をより推進し、全校生徒が美化意識を持つよう指導する。</p>
(8)図書指導	<p>①「朝の読書」は、学年の理解や担任の指導により、10分間は読書をするという良い雰囲気が整ってきている。</p> <p>②図書館オリエンテーションや種々の読書指導により、図書館の利用者数が増加し、図書館で読書をする姿が昨年度より多く見られた。</p> <p>③行事への取り組みを通して、図書委員が自主的に取り組めるようになってきた。全員参加で文化活動発表会の企画を行い、「三杉No.57」を発行した。</p>	<p>①「朝の読書」に対する共通理解をより一層高め、またクラス文庫のあり方などについても検討を続ける。</p> <p>②全体への利用指導をするとともに、個人への指導も一層充実させる。</p> <p>③委員会活動の目標や目的、活動内容を明確にし、自主的な活動を促す。</p>	<p>①新着本情報や本の紹介などの広報活動を充実させることにより、読書活動の活性化を図る。</p> <p>②開かれた図書館を目指して、個々の関心に応じた読書指導の充実を図る。</p> <p>③図書委員会の生徒の自発的な活動の充実を目指し、適切な指導を行う。</p>
(9)情報	<p>①グループウェアの有効活用を行った。(掲示板・施設予約・ショートメール・ファイル管理等)学校全体としては安定したネットワーク管理を図り、トラブルの発生はなかった。個人情報の管理や執務用PCの利用に関する規定を遵守するよう周知し、情報の流出等の問題は生じなかった。</p> <p>②HPの有効活用を行った。各分掌・委員会・教科・学年から各種データ提供を得て、本校の現況の迅速な情報発信ができた。</p>	<p>①効果的なセキュリティ対策と適切なネットワーク管理により情報漏洩等やネットワーク障害のトラブルを防ぐ。</p> <p>②HPのCMSサイト化に伴い、迅速なHPの更新を心がける。より魅力的で効果的な情報発信の方法を研究する。</p>	<p>①フィルタリングやウイルスプロテクトにより、トラブルの未然防止に努め、障害時には迅速な対応に努める。生徒、教職員のPC・ネットワーク利用者の規範意識を高める。</p> <p>②HPの迅速な更新のために校内各所との連携を深める。HPの効果的運用方法を引き続き検討する。</p>
(10)教育相談	<p>①普段から生徒の動向に注意し、養護教諭・教育相談係と学年・学級担任等との連携をとることができた。また、臨床心理士と保健厚生部、学年とも連携を図ることができた。</p> <p>②相談室だよりを通して、生徒が問題解決能力を高められるように工夫した。</p>	<p>①悩みを持つ生徒に対して、関係職員と連携を図り、より早期対応できるようにする。</p> <p>②生徒にわかりやすい相談室だよりの作成。</p>	<p>①生徒個々に合った指導方法を、保護者と学校関係者間で連携して立案・実行する。</p> <p>②臨床心理士と連携を密にして解決の手だてを模索。</p>

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(11) 1 学年	<p>①「基本的な生活習慣を身につけさせる」ことを目標に、STや授業では服装を整え、開始のチャイムで着席していることを徹底した。多くの生徒に意識付けすることができたが、教員側の声かけがないと徹底しないことが多い。</p> <p>②遅刻や服装などの生活態度に改善が見られない生徒は、保護者と面談し、改善に向け協力を仰いだ。保護者と学校との協力により、徐々に改善している生徒もいる。</p> <p>③家庭学習の習慣がない生徒には、放課後補習を行い、4年制大学志望者には週末課題を設定した。それぞれの目標に応じた学習に取り組むことで、少しずつ学習習慣が確立してきた。</p>	<p>①周囲に流されず、高校生としての自覚を持って主体的に行動できる生徒を育成する。</p> <p>②生活態度に乱れのある生徒の指導では、教員間の情報共有を徹底し、保護者に協力を仰ぐ。</p> <p>③生徒一人ひとりが進路目標を具体化し、目標を持って学習に取り組むことのできる環境を整える。</p>	<p>①地域との連携や、体験的な学習を通して高校生として必要な資質を学び、主体的に行動する姿勢を身につけさせる。</p> <p>②保護者との連携では、できていることと、改善が必要なことを明示し、改善に向けた具体的な対策を話し合う。</p> <p>③「総合的な学習の時間」を中心に進路選択への意識を高め、進路目標を具体化できるよう個別面談の機会を多くとる。</p>
	<p>①進学や就職への意識をより明確にさせるために、県外進路研修やインターンシップ、卒業生に聴く会等を実施した。様々な機会を通してより継続した進路意識が高まってきている。また、進路ガイダンスや就職模試、小論文講演会など希望進路ごと具体的に小人数で指導を行うことで、受験意識の変化や自ら努力しようとする生徒が見られるようになった。</p> <p>②集団の中での自分を見つめ、思いやりや責任ある言動ができるよう指導してきたが、今後も継続して指導していきたい。</p> <p>③基本的な学力向上のため、週末課題や模試の事前・事後学習なども活用したが、全体としての学習時間はまだまだ不足している。</p>	<p>①進路指導については、進路指導部と学年、教科など一体になることが必須である。</p> <p>②外部講師や地域での活動など、もっとたくさんの人との交流の機会を持つことで多くの人に支えられて成長している自分を意識できるようにさせる。</p> <p>③HRや総合的な学習の時間にも、基礎学力向上のための内容を組むとよい。</p>	<p>①進路を決めていくには学年のみならず、学校全体で指導できる体制をとるべきである。</p> <p>②生徒は知識だけの理解ではなく、多くの体験学習を通して、身を持って気づかせることで、精神面の大きな成長もはかる。</p> <p>③短時間でクラスや授業でも出来る復習内容を考え実行することで、理解を促し学習意欲の高揚を図る。</p>
	<p>①進路実現に向けての努力はするが、決まってしまうと、特に学習意欲が薄れる生徒が多く、将来を見据えた継続的な学習意識の向上には至らなかった。</p> <p>②遅刻・欠席が多い生徒には、社会的影響を考えて行動できるように指導してきたが、あまり改善が見られない生徒がいた。</p> <p>③体育大会や部活動などでリーダー的立場を経験し、相互理解や問題解決への過程から、社会性を身につけ、学校生活に活かした生徒が見られた。</p>	/	/
(12) 地域との連携	<p>①「高校生さわやか運動」は、上市駅頭に於いて、夏・秋で保護者約28名の参加があった。</p> <p>②「PTA保健講座」では、PTA会員と教職員、生徒が協力して活動しあえる場として定着してきた。</p>	<p>① PTA行事等に参加し、やすい環境作りを目指す。</p> <p>② PTA行事について、会員のニーズに合った活動を目指していく。</p>	<p>① 生徒指導部と連携し、身近な問題を取り上げてアンケートを実施する。</p> <p>② PTA役員からの働きかけや、広報活動を地道に積み上げていく。</p>